



ボウイ自身が選んだ100冊を語り尽くすファン垂涎の一冊

ビートやモッズにはじまり当時のカルチャーの洗礼を受けた少年は、生涯かけて数えきれない数の本を読んできた。『時計じかけのオレンジ』『異邦人』『午後の曳航』『ロリータ』『一九八四年』『オン・ザ・ロード』『グレート・ギャツビー』『冷血』『引き裂かれた自己』, etc.

Bowie's Books——デヴィッド・ボウイの人生を変えた100冊
ジョン・オコーネル:著 菅野楽章:訳 亜紀書房
四六判並製 376頁 2021年9月刊 ISBN:9784750517162 2,420円



「音」で読み解く生物界 ピュリッツァー賞最終候補作品

きらめく散文によって世界の音の聴き方が変わる本。歴史、生態学、生理学、哲学、生物学をシームレスに融合させながら、鳥や昆虫、風や海、人の声や楽器が作り出す美しい音を紹介。同時に、「自然破壊による生態系の沈黙」について、説得力ある警告を発する。

生物界は騒がしい——音と共に進化した、生き物とヒトの秘められた営み
D・G・ハスケル:著 屋代通子:訳 築地書館
四六判上製 432頁 2025年3月刊 ISBN:9784806716808 3,960円



読書は歴史を変える。明治維新は松陰の本棚から始まった！

明治維新の指導者を育てた吉田松陰。彼は古今東西の書物を読破して情報を集める読書魔だった。松陰はどのように読書をし思索を深めたのか。膨大な読書歴から松陰の思想にせまる。各地の志士たちと結んだ読書ネットワークから、書物を通して新たな幕末を描く。

松陰の本棚——幕末志士たちの読書ネットワーク
桐原健真:著 吉川弘文館
四六判並製 202頁 2016年10月刊 ISBN:9784642058377 1,870円

* 価格は10%税込、2025年5月のものです。

出版者クイズ

なんていう名前の出版社かわかりますか？

①創業は1886（明治19）年。昭和初期にそれまでの農業・理工書などから文芸・人文書に舵をきり、昭和30～40年代には全集ブームの先駆けとなって会社が飛躍的に成長する。

②戦時中も唯一、文芸誌を出し続け、現在にいたるまで下級に著名な作家を輩出し続けている。1957年には「週刊女性」、1985年には「Le Kimono」といった雑誌も創刊したが、長続きしなかった。

③現社長が入社したのは1988年。営業部では実に19年ぶりの新卒採用だった。後に編集部に異動し、社長に就任したのは2011年。直後に東日本大震災が起き、「売上どうする？」という現実と直面するスタートとなった。

④当時（今も？）、社長業なんてわからなかった。だが一番嬉しいのは読者に「良い本だね」「面白かった」と言われた時だな、と気づいてから目標がクリアになったという。

*クイズの答えは次号(26号)=梓会加盟出版社を紹介してゆきます

前号のクイズの答え

あなたの未来につながる コンパス 羅針盤

WAVE出版

1987年に市ヶ谷で創業。『国際ビジネス法ハンドブック』を皮切りに、6回の移転を繰り返しつつ、『働く君に贈る25の言葉』『インバースケット思考』などのビジネス書、『石井ゆかりの星座シリーズ』などの趣味・実用書、『10代から知っておきたいあなたを閉じこめる「ずるい言葉」』などの人文書と、幅広いジャンルの書籍を刊行。2018年に株式会社ぎょうせいのグループ会社となり、2024年に新木場へ移転。7回目の引っ越しとなる。



梓会 図書館クラブ 通信

Azusa-kai Library Club



図書館は本の森。出版梓会は事典から絵本までユニークな本を丁寧に作る出版社の集まりです。この葉では毎回テーマを決めて、読書の愉しみを、ひとりの時間を極上してくれるお宝本を、こっそりお教えします

その本を読んでいると、
もっと本が読みたくなる、
そんな引力のある本ってありますよね。

今回のテーマは、
本を読みたくなる本。

タイパなんて関係ない。
本を読む喜び、幸せがいっぱいの本、
大集合。



25号(2025年5月)
出版梓会

データダウンロードはこちら⇒





いつもいく図書館に、こんなひみつがあったなんて！

吸血鬼っぽい女の子・ノダちゃんと図書館にいったら、ひみつの部屋を見つけちゃった!? そこにいたのは、司書みならいだというふしぎな女の子・司書子ちゃん。ノダちゃんとサキちゃんは、本の修理や読み聞かせなど司書さんの仕事をお手伝いすることに……。

なのだのノダちゃん ピっくり図書館

如月かずさ:作 はたこうしろう:絵 小峰書店

21×16cm上製 135頁 2022年3月刊 ISBN:9784338295062 1,430円



本に刻まれた記憶、思い出をそのままに修繕する物語の守り手

アメリカの大学図書館で書籍修繕を学んだ著者のもとに持ち込まれる、傷んだ本、バラバラになった本たちが生きてきた物語に耳を傾け、所蔵者の想いを感じながら、新しい命を吹き込む。あなたにも、修繕してこれからも大切にしたい本が、きっと思い浮かぶはず。

書籍修繕という仕事

ジェオン:著 牧野美加:訳 原書房

四六判上製 320頁 2022年12月刊 ISBN:9784562072439 2,200円



現役書店員さんが綴る本屋さんでの小さな物語

こんなへんてこりんでおもしろい職業ってないかも！ 現役書店員さんが、さまざまな悩みを抱えてやってくるお客様に、ぴったりの本をすすめる、笑いあり涙ありの本屋エッセイ！ 今からすぐ本屋さんに行きたくなります！

書店員は見た！

森田めぐみ:著 大和書房

四六判並製 224頁 2024年5月刊 ISBN:9784479394310 1,650円



韓国では誕生日にワカメスープを飲むんだって。出産後の定番スープで母親に感謝するそう。生ワカメは胡麻油で炒めると翡翠色に♡ 鶏ガラだしで滋味満点♡ 美味しいよ♪



当代一の「文士」愛好家による前人未到の文学案内！

井伏鱒二は“かわいい系”、室生犀星は“乙女子”、堀辰雄は“実は骨太”、そして神西清の知られざる“やさしさ”——！ 読めば文士たちが綺羅星のごとく光り出す☆☆ミラクル級の「好き」を語りつくす偏愛系文学のススメ。三宅香帆&大島真寿美、推薦！

文士が、好きだっつ!!

坂上友紀:著 晶文社

四六判並製 304頁 2025年2月刊 ISBN:9784794974556 1,870円



世界文学の翻訳者も作家だ。翻訳の理念、原理、技法。

ヒエロニムスは古代ローマ、ヘブライ語の原典からラテン語訳『聖書』を完成させ聖人に列せられた。19世紀のヨーロッパ諸言語の文学の仲介者となったフランスのコスモポリタンによる翻訳論。多言語、多文化を日本語で読めるのは翻訳者あってこそ。

聖ヒエロニムスの加護のもとに

ヴァレリー・ラルボー:著 西村靖敬:訳 幻戯書房

四六判変型上製 456頁 2023年1月刊 ISBN:9784864882644 4,950円



1冊の本が未来を変える と信じた時代

アガサ・クリスティーや星新一のブックデザインで知られるイラストレーター真鍋博が手がけた書籍装幀から雑誌の表紙まで、974点をアーカイブしました。作家・担当編集者による貴重な証言も掲載しています。寄稿：筒井康隆、豊田有恒、最果タヒ、榎本俊二

真鍋博 本の本

五味俊晶:編著 パイ インターナショナル

A5判並製 484頁 2022年12月刊 ISBN:9784756256416 3,520円



大学生協職員による77冊のブックガイド！

海外旅行好きであり大学生協職員として多数の本に触れてきた著者の、20年以上にわたる旅行記と訪れた国にまつわる本を紹介するブックガイド。文芸、エッセイ、レシピ本など、77タイトルを掲載。翻訳家、金原瑞人氏の対談も収録。

読んで旅する海外文学

重松理恵:著 大月書店

四六判並製 320頁 2023年5月刊 ISBN:9784272612451 2,200円



1日2時間の動画が、1日2冊の読書になる！

本書では、正しい読書のハマり方を40個のTipsとともにお伝えします。家庭での効果的な読書教育について知れば、子どもはきっと本の魅力にハマるはず。子どもが夢中で本を読み続けるための「読書家のワザ」を子どもに教えられるようになりますか？

東大発！1万人の子どもが変わった ハマるおうち読書

笹沼颯太:著 ディスカヴァー・トゥエンティワン

四六判並製 280頁 2024年5月刊 ISBN:9784799330210 1,760円



これから大人になる君とすべての大人たちへ

各界109名の書下ろしオールカラーブックガイド。人それぞれに異なる読書のコツや若者への温かいメッセージ満載で、好きな方はもちろん、ふだんは読書習慣のない方も、きっと運命の一冊に出会えます。プロデューサーはブックディレクター幅充孝氏。

みちのきち 私の一冊

國學院大学ブックプロジェクト:編 弘文堂

四六判上製 256頁 2018年4月刊 ISBN:9784335950407 1,980円